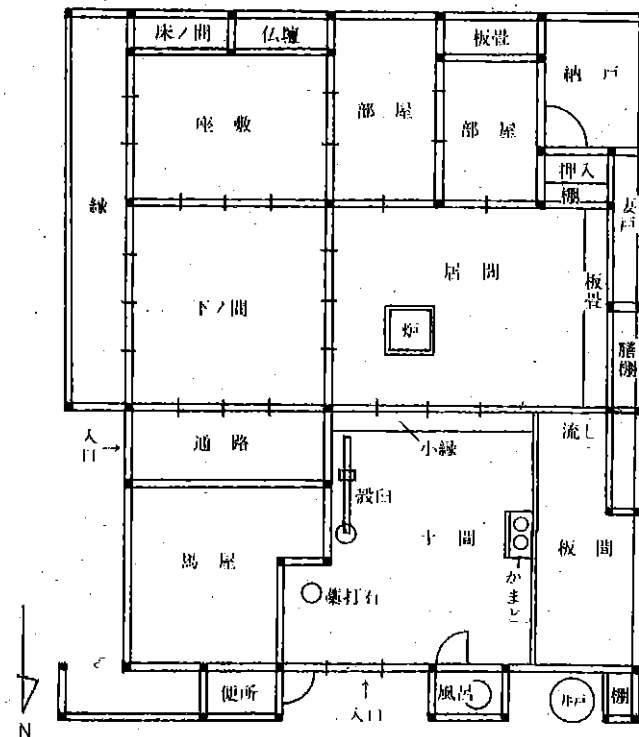


頭巾山青少年旅行村かやぶきの家の概要

■ 移築年度 昭和53年度

(移築当時の平面図)



■ 経緯 私たちの祖先が生みだして生活してきた生活文化の所産である用具などは年を経るに従って消滅し忘れられようとしています。

これらの祖先の遺産を保存することを目的にした民俗資料館がこのほど納田終、青少年旅行村に建設されました。

この民俗資料館となる建物は江戸時代末期のもので、下三重の田中喜平次さんの茅葺き住宅を移築したもので総事業費1,100万円をかけて建設されました。

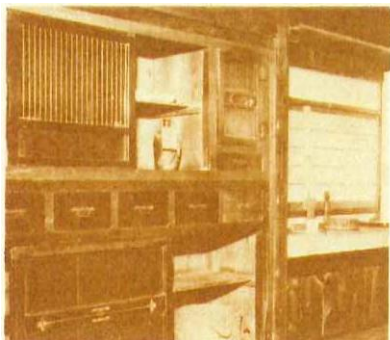
■ 心のふるさとをたずねて ～自然につつまれた安らぎの里～

緑深く、水清らかな名田(めいでん)の庄、ここに私達の祖先は、遠く縄文の昔から大自然に親しんで生活してきました。

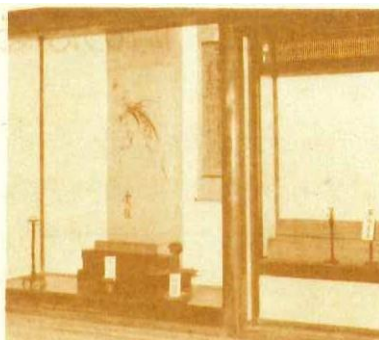
ことに名田庄村は、古くから平安の都と交流をもち、その優雅な文化をとりいれて、詩情にみちた安らぎの里をきづいてきました。

そうした歴史的流れの中で、私達の祖先が生活の中から生み出し、それを使って生きてきた、いわゆる生活文化の所産である民具類も、年を経るにしたがって消滅し、あるいは、忘れ去られようとしています。

私達は今こそ祖先の遺産をとおして昔を偲び、それを基にして新たな心をもって、再度ここに“詩情あふれる安らぎの里、”づくりに励もうとしています。



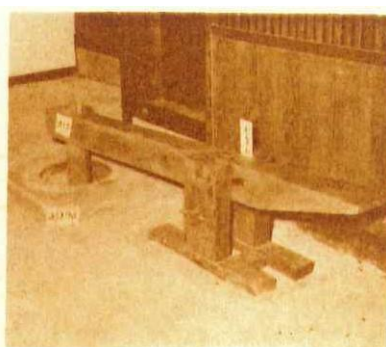
膳棚



床ノ間



炉



穀臼

この家は、当村三重区の民家（推定約 200 年前の建築）で、幕末期の当地方農家の代表的建築様式である。

尚、この資料館に展示の民具類は、当時の生活様式をそのままに偲ぶねらいをもって、一家族の生活に必要な最小限にとどめた。

■ ホテル流星館別館かやぶきの家として利用



頭巾山青少年旅行村
(ホテル流星館・厩会館・バーベキュー場・かやぶきの家)を
空中から撮影



ホテル流星館の別館として
会食や宿泊に利用される

■ 現況



【令和7年4月7日 撮影】

■ 平面图

